

第15号

2019年3月

きらら坂

関西セミナーハウス活動センターだより



四つの大事 榎本 栄次

家族による幼児虐待、という悲劇がまた起きた。強者の支配は終わらない。セクハラ、パワハラ、強者による嘘とごまかしの悲劇が後を絶たない。家庭から、芸能界、スポーツ、学校、国会まで枚挙にいとまがない。これまで上下関係の理不尽な支配が美学のようにされてきた。

しかし今はそのようなことは許されない時代になってきている。強国による一国主義は国際社会では許されない。弱い立場の者が黙っていなくていい時代になっている。その点から言えば時代はよくなっているのだろう。しかし現実には悲劇は続き、さらにひどくなっている。

聖書には「平和を実現する人々は幸いである。その人たちは神の子と呼ばれる」(マタイ 5:9)とあるが、絶望に思えるこの時も人間の務めはとても重要だ。世界の平和のため小さいながらも努めていたい。

昨年秋、新潟の敬和学園大学で小和田恆氏(元国際司法裁判所所長)の話聞く機会があった。氏によれば、近代に入り国際社会では強国による侵略戦争は許されない時代になっている。19世紀までは強国が小さい国を支配することが正義であったが、公にはその時代は終わり、戦争の無い社会へと向かっている。グローバルな生き方というのは、国際社会で大国がするように、他を支配することではない。どんなに小さな存在であっても、いつも世界の平和を願うことである。そういう生き方のできる人になってほしい。そして「4つの大事」を説いた。

まず第一に「Integrity (誠実)」

人間としての誠実さを強くすること。日本人

は時間を守ったり、よく約束を守る。災害のときなど、略奪や暴力はほとんど見られない。みんなが助け合っている様子は他の国に誇れるものがある。国民性として大切な資質を持っている。党派や自分たちの利益で曲げられてはならない。たとえ損をしても、正直であることはとても大切なことである。ごまかしてその場をうまく取り繕うというような生き方をしないこと。間違った時には素直に謝ることは勇気のいることである。

第二は、「Imagination (想像力)」

想像力を豊かにすること。自分のことばかり主張するのではなく、相手のことを推し量ることができる力が求められている。

日韓関係で考えると、相手の立場に立って考える必要がある。それが想像性である。そこに立つことが平和を作り出すことであり、あの戦争の悲劇を繰り返さない力になる。

第三は、「Insight (洞察力)」

本当のことを見極める力。人はいろいろ言う。人の声や周りの雰囲気流されないで、根底に流れている本質を見極める努力が必要である。

第四に「Individuality (独創性)」

一人ひとりが個性を持つこと。主観に走らず、歴史の経験から学ぶことである。事実に基づいて論理を立てる。そして世界の平和に向かって考えることである。そのためにしっかりと勉強してほしい。文学に触れることが大切である。

このような内容であった。この四つの「I」は四つの大事 (Importance) であろう。

個人も国も、まだ強者の支配する一国主義に戻り、そこに留まろうとすることは考え直した方がいい。

✧ なんどきですか ✧

・ 天皇の代替わりで平成が終わろうとしている。これまでの天皇のお働きに感謝しつつ、新しい天皇が憲法のもと、国民の象徴として祝福の内に即位されるよう期待したい。世界がグローバルになっている今日、コロコロ変わる元号はとても不便である。別にキリスト暦にこだわるつもりはないけれど、共通の歴史に立ちたいものだ。

・ 米朝首脳会談が合意に至らなかったのは残念であるが、互いに非難し合っていないのがすごくいいことだと思う。焦らずに、ゆっくりと正しい解決を作り出してほしい。

投稿 京都俳句きらら会他

- ◎ 山裾を隠し春立つ霞かな 周豊
- ◎ 戸を叩く遠来の客春一番 虚舟
- ◎ 薄日さす傘寿の庭に露の臺 小次郎
- ◎ ぼたん雪吸わるるごとく道に消ゆ 公女
- ◎ 木漏れ日や風花連れて降り来る 星児
- ◎ 盆梅や枯木にありし力こぶ 茶香
- ◎ 淡路島菜の花背負い青い海 岳

◇おさそい◇

4月 8日 (月) 13:30~16:30

「聖書をいっしょに読みましょう 2019」①

座長 榎本 栄次 (関西セミナーハウス所長代行)

4月 20日 (土) 13:30~17:30

修学院フォーラム「社会」①<平和を考える-1>

「ボンヘッファーの平和倫理」

講師 山崎 和明 (四国学院大学名誉教授)

5月 13日 (月) 13:30~16:30

「聖書をいっしょに読みましょう 2019」②

座長 榎本 栄次 (関西セミナーハウス所長代行)

♥有り難うございました♥

関西セミナーハウス活動センターへの賛助・寄付金

2019.1.1-2.28 順不同・敬称略

西岡 裕芳、宇井 裕美、日本基督教団希望ヶ丘教会、日本基督教団長岡京教会、藤田 恭子、高畑 恵子、日本基督教団西が丘教会、伊藤 正子、井上 勇一、田中 義信、株式会社アザーコンチネンツ、柳井 一朗、日本基督教団天満教会、日本基督教団世光教会、日本基督教団平安教会、日本基督教団倉敷教会、武山 泰子。

四季だより

～夢見草～

関西セミナーハウス庭園担当 榎 廣光

杉苔の手入れをしていると突然苔の中から、ぴよこんと土色のカエルが飛び出してきた。手の親指ほどのカエルだ。啓蟄(けいちつ)とはよく言ったものだ。カエルはちっとも動こうとしない。まだ眠いのか。それともどこへ行こうかと迷っているのか。どこからか、かすかな花の香り。梅だろうか。沈丁花かな。

これまでは棚田の霜とか比叡山や北山の雪などしか目に映らなかったものが、このごろはおひさまの日差しを感じる。

これからは束の間ではあるが桜のシーズンだ。今はまだ蕾の状態。観桜期になると有名社寺は人で混雑する。

桜と言えばお花見である。花見にかこつけての宴会だ。京都市内いたるところに桜の名所はあるが、近隣では高野川添い、賀茂川添い、哲学の道、植物園、半木の道などが手頃かもしれない。また松ヶ崎浄水場南側疎水べりの桜並木も魅力的だ。人も少なくゆっくり自分の時間を過ごせる。また自生の山桜も捨てがたい。近郊の山手で目にすることができる。

花見も手放しで楽しめない。毎年花見シーズンになると賀茂川公園や高野川添いに設置されているゴミカゴ周りには花見の残骸が散乱している。せつかくの夢見草(満開の桜の下にいるととても美しく夢をみているような別世界のこと)も興ざめする。立つ鳥跡を濁さずということわざがある。